



No.115

平成14年1月20日発行

# 路材協会報

路面標示材協会

東京都千代田区神田佐久間町2-13(深津ビル)

〒101-0025

Tel (03) 3861-3656

Fax (03) 3861-3605

## 目次

「新年に思う」生活者への安全と安心に向けて ……副会長 山田 耕一 … 1
国際規格ISO 14000について ……………鈴木 芳広 … 4
平成13年中の交通事故死者数について ……………事務局…12
事務局便り ……………16
<b>余滴</b> ……………16



### 新年に思う 生活者への安全と安心に向けて

副会長 山田 耕一

新年、明けましておめでとうございます。

昨年中は、各方面の方々には、当協会に対し、色々なご指導・ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、春の自民党総裁選挙の経過から、構造改革を掲げる小泉内閣が誕生し、国民の圧倒的な支持を得てきました。それにより、年度後半には景気回復への足

掛かりをと期待していたところ、9月にアメリカでの同時多発テロが発生し、世界貿易センタービルに飛行機が突っ込んで行く瞬間、そして爆発、崩壊。この無惨な光景は今でも私達の脳裏にはっきりと残っています。そして、これに続くアフガニスタン問題や民需停滞により、アメリカの経済は素より、わが国の経済も多大の影響を受けています。更に、IT関連の不況で、大手企業では大規模な人的リストラが行われるなどにより、我が国の、失業率は2001年10月には5.4%（男子では5.8%）と戦後最悪の状況になっています。

これらの結果、平成13年度の経済成長率は、政府見通しのプラス1.7%を大幅に下回るマイナス1%程度にまで急落の見通しになりました。このことは2002年3月期決算に向けて、景気の一段の悪化、株価の下落、金融不安の本格化などで、日本経済は根幹から揺さぶられることになりそうです。そして、年末発表の平成14年度政府予算では、81兆2千3百億円（平成13年度当初予算に比べ△1.7%）となっております。

私たちの業界もこの10年、市場は縮小の一途です。確かにシートベルトの着用やABSの普及でこの10年余りは、道路の交通事故による死亡者数は相当な減少をしておりますが、交通事故の発生件数や負傷者数は反対に増え続けております。交通安全に携わる者として、これで良いのかとの疑問が生じます。

思いみると、今までの路面標示は、車社会に対応したルールのための標示が基本でした。しかし、都市活動が24時間化したり、いわゆる高齢者社会になってきた今日では、例えば、視認性が良く生活者向けを中心とした標示などがあっても良いのではないのでしょうか。又、バリアフリー化が進み、車道と歩道の区別や自転車と歩行者との区別など、生活者が日常生活の中で安心して利用できる安全で快適な道路造りが進められて然るべきかと思えます。そして、それらの社会環境に配慮した水性化、無鉛化などのいわば“環境型塗料”を提供することは私たちの使命だと考えます。

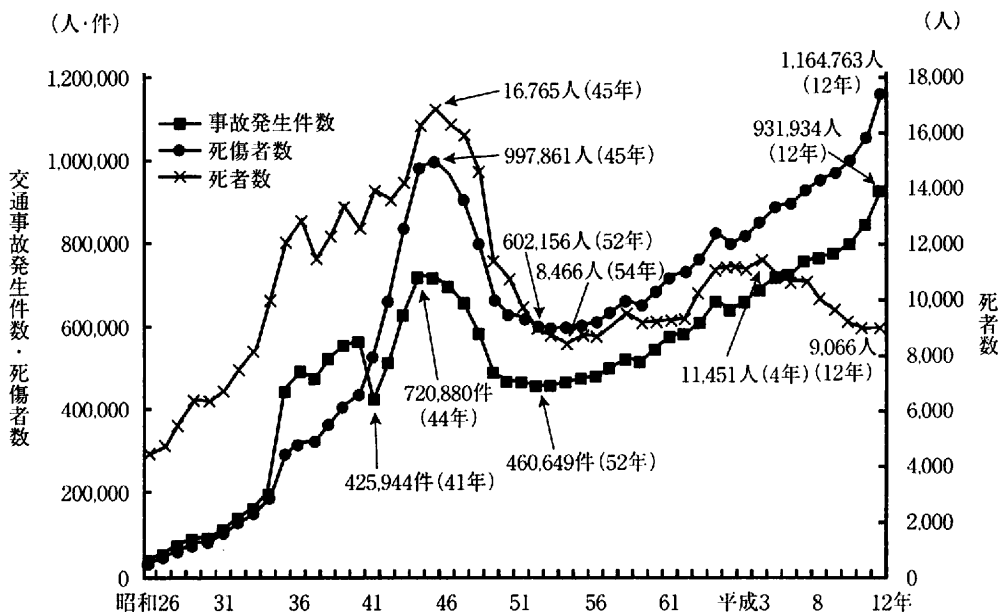
アメリカでの同時多発テロは、21世紀を迎えた人類社会が、新たな危機に遭遇したことを示すものです。そして、これを契機に国家的規模・世界的規模の危機管理がスタートしています。私達は、私達の身近な危機管理の一つとして、事故の防止に役立つ路面標示の提供をしたいと考えます。

今年2002年はサッカーのワールドカップが日本と韓国で開催される年でもあります。世界の各地から沢山の人が日本にやってきました。世界の人々にも安全と安心を提供できるよう、日本の路面標示を見せたいものです。

注)「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」(いわゆる“交通バリアフリー法”)が平成12年11月に制定されている。

(アトミクス(株)取締役道路事業部長)

道路交通事故による交通事故発生件数、死傷者数及び死者数の推移



- 注 1 警察庁資料による。  
 2 昭和41年以降の件数には、物損事故を含まない。  
 3 昭和46年までは、沖縄県を含まない。

# 国際規格ISO 14000について

鈴木 芳広

## 1. はじめに

本会報の105号に、「国際規格ISOのあらまし」という題目で、ISOそのものの本質とISO 9000シリーズを主体とした寄稿（伊藤林蔵氏）が既になされていますが、今回は、環境マネジメントシステムの国際規格ISO 14000シリーズについて、その概要を簡略に述べることにします。

最近、新聞やTV報道で皆さんもよく見られてご存知のように、地球規模での環境悪化（オゾン層の破壊、二酸化炭素の増加による温暖化ほか）が色々な角度から問題にされています。

そこで、「環境保全に取組み、持続的に発展できる循環型経済社会づくり」と「世界各国が公平に役割分担をする」ためのツールとしての仕組みを担う国際基準として、環境ISO規格が高い関心をもたれているのです。

## 2. ISO 14000シリーズとその背景

ISO 14000シリーズは1993年2月に発足したISOのTC207で検討が進められ、1996年秋にISO 14001、14004、さらに14010～12国際規格が制定された。審査登録に使われるのはISO 14001である。

ISO 14000シリーズができた背景であるが、次の要因が大きいと考えられる。

- (1) 1990年代から世界的な環境問題に対する大きな流れ。
- (2) 環境問題への法規制方式での対応に限界がでてきたこと。
- (3) 自主管理や柔軟な対応の必要性が高まったこと。
- (4) 企業の環境問題への自主責任が非常に重くなってきたこと。
- (5) ISO 9000シリーズの普及から、システム規格の有効性に対する意識が高まったこと。

### 3. ISO 14001とISO 9000との相違点 (図1)

ISO 9000になくて、ISO 14001にある項目

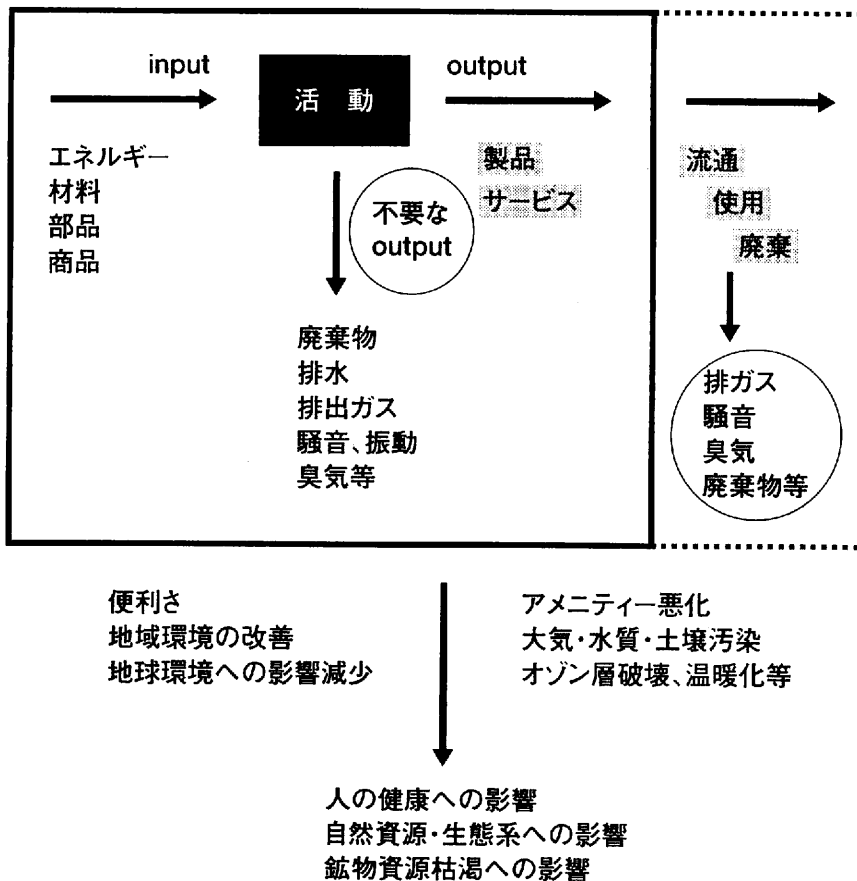
(1) 環境側面の明確化

環境に著しい影響のある、あるいは可能性のある活動、製品またはサービスの環境側面を明確にし、環境対策の目的、目標、管理計画等に反映させる。

(2) 法規制等の要求事項をリストアップ

事業活動、製品、サービスに係わる法規制等の要求事項を環境側面と関連させて明確にしておく。(特に生産過程における不要、無効なoutput→エネルギー、廃棄物等)

図1 環境側面と環境影響



(3) 外部とのコミュニケーション

(図2)のごとく、環境問題は利害関係先が多く、企業と周辺関係者とのコミュニケーションが求められる。又、「環境方針」は外部の人が入手できるようになっていなければならない。

(4) 緊急時対応

「非定常時、緊急時」の潜在的環境影響の可能性を明確にし、環境への影響及び負担を軽減する。(図3)

図2 利害関係者

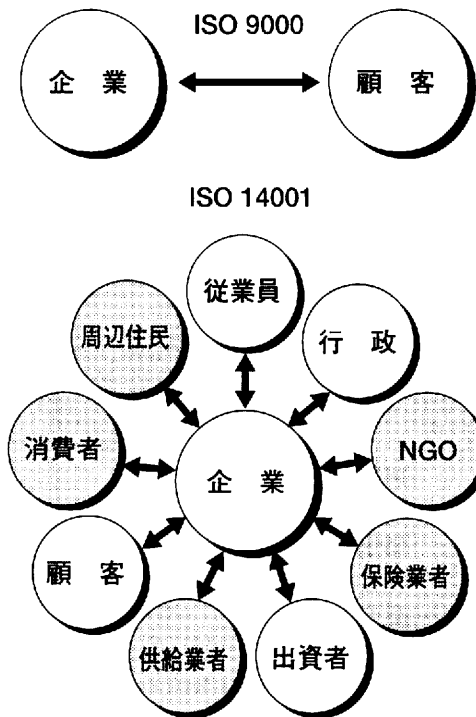
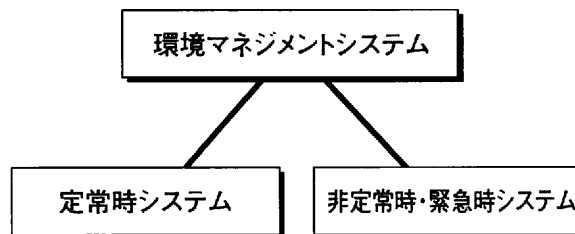


図3 二通りのシステム

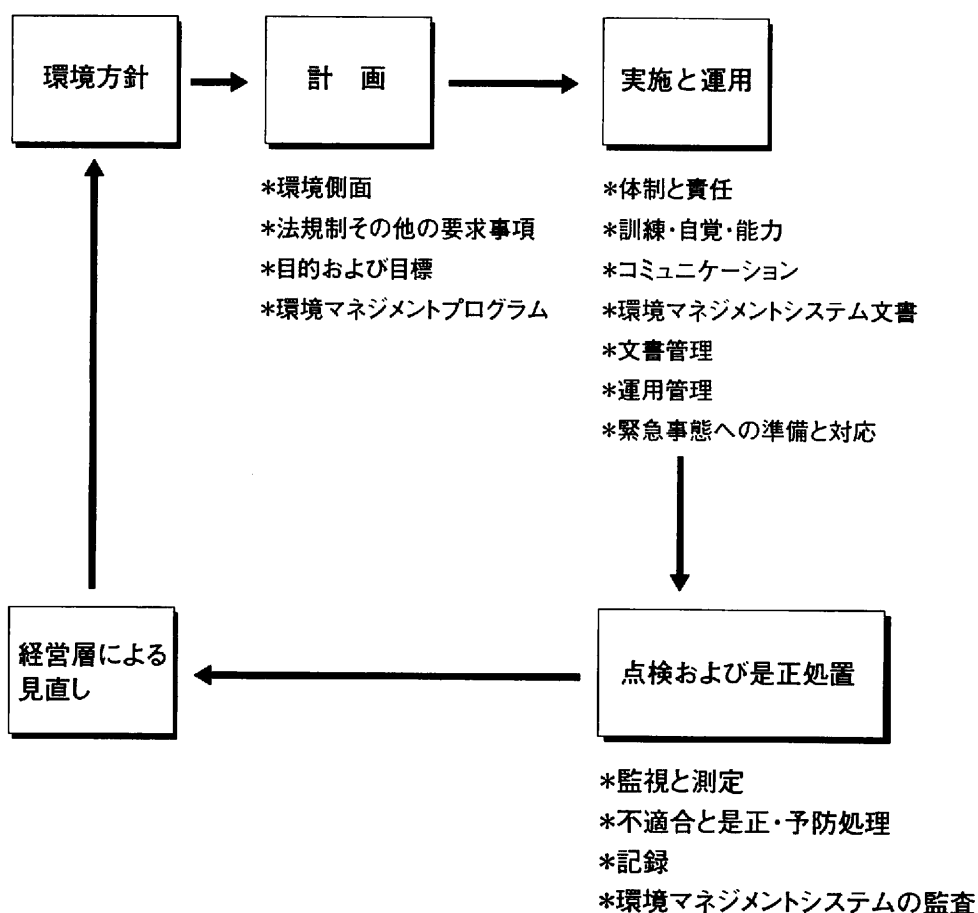


#### 4. ISO 14001環境マネジメントシステム規格の概要

ISO規格の仕組みは（図4）に示した通り、PDCAのサイクルを持った規格となっている。

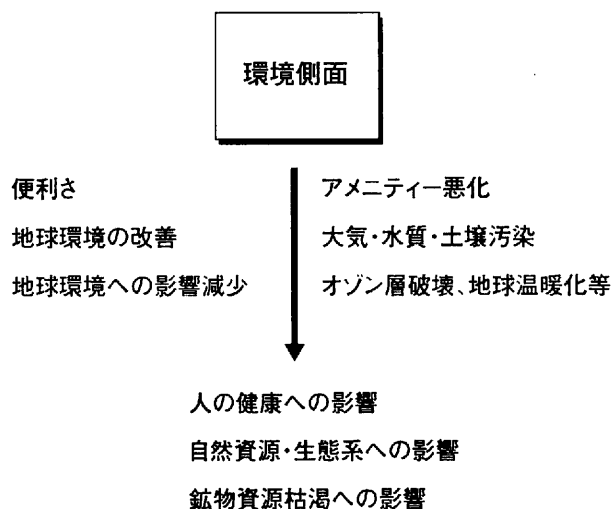
即ち、計画（PLAN）、実施・運用（DO）、点検及び是正（CHECK）、経営層による見直し（ACTION）、の継続的改善のサイクルを持ったマネジメントシステムの規格である。

図4 ISO 14001の環境マネジメントシステム



- ① 先ず最初に、自分達の企業が環境に関連して置かれている状況を調べ、認識し企業のトップマネジメントが、環境保全、改善についての企業方針「環境方針」をきめる。
- ② 計画（P）では、企業が対応すべき法規制、業界規制等の要求事項を整理するとともに、企業活動の一つ一つが環境にどのような影響を及ぼしているか、「環境側面」を評価する。（図5）その中で影響の大きいものを決める。これらの調査検討結果より環境改善に対する目的、目標を決める。その目標を達成するための計画（環境マネジメントプログラム）を作成する。

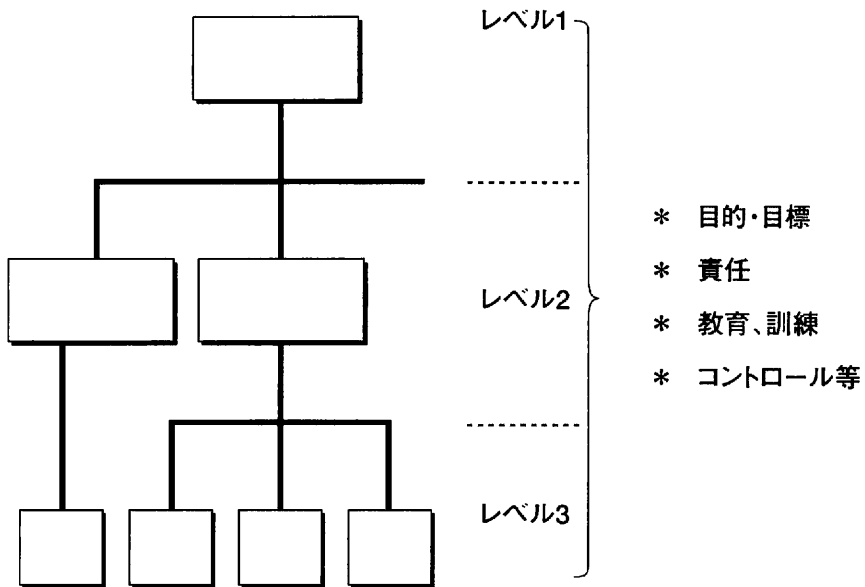
図5 環境側面と環境影響





- ③ 実施及び運用 (D) では、計画を実行し、環境を守り改善していくために、レベルごとに必要な体制訓練、システム運用の手順を規定している。(図6)
- ④ 点検及び是正処置(C)では、各種規制への対応状況、改善目標の達成状況、環境側面管理状況を監視点検すること、内部監査すること、トラブルや逸脱に対する再発防止を行うことを規定している。
- ⑤ 経営層により、内部監査の結果などを総合的に見直し(A)、環境マネジメントシステムがうまく動いているかを判断し必要な軌道修正を行う。(更に一段上を目指す向上が含まれる。)

図6 各機能、レベルごと



## 5. 審査登録制度の仕組み

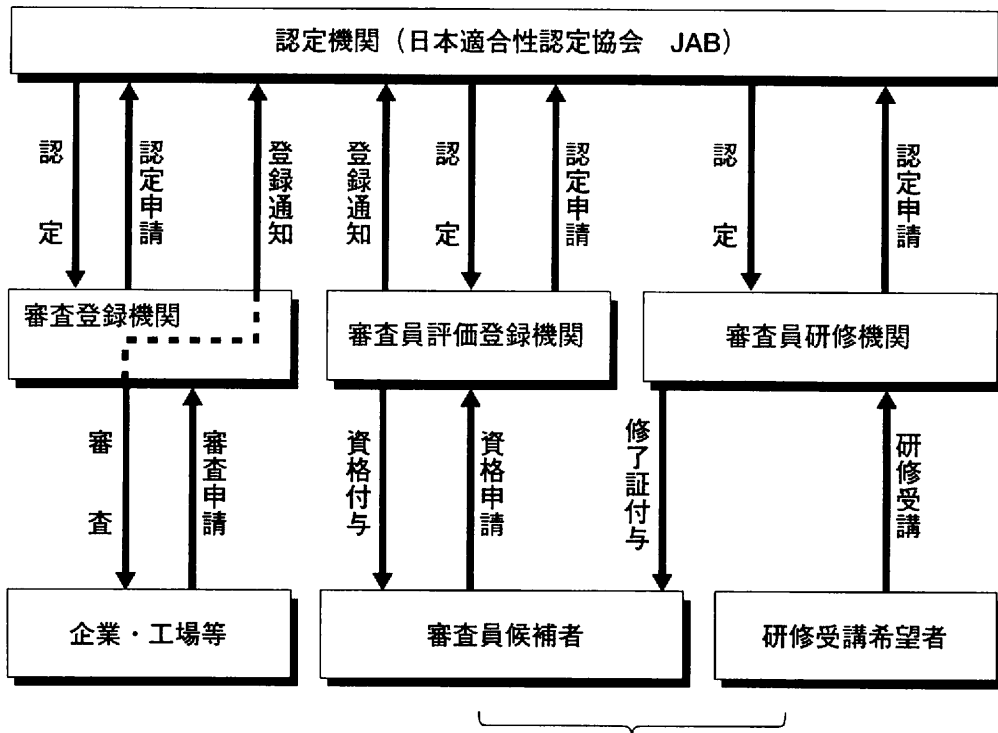
審査登録制度の仕組みは（図7）の通りである。これは、ISO 9000シリーズの場合とほぼ同一である。

審査は、国際的に認定された審査登録機関によりおこなわれる。

審査機関の審査員は、認定機関により認定を受けた審査員教育機関での研修をうけ、必要な資格と審査経験を経て、審査員評価登録機関により評価され登録された者でなければならない。

これらの認定の基準や手順は、国際的な整合性を持つよう作られ、運用されている。

図7 環境マネジメントシステム審査登録制度の仕組み



自分の会社の中で自己監査を行えるようにするには審査員を養成する場が必要です。

## 6. おわりに

以上、ISO 14001要求事項の概略とキーポイントを説明しました。

環境マネジメントシステムを構築するには、組織全体がその気になる必要があります。環境マネジメントシステムの普及は、厳しさを増す法規制、環境保全を促進するための経済的政策、及びその他の対策の開発、持続可能な環境問題に対する利害関係者の高まりを背景としている。(現在、ISO 14001をベースとして、JIS 14001に制定される方向にある)

(付記) その他の参考情報として

茨城県はグリーン調達<sup>※1</sup>の方針として、茨城県庁が2001年9月にISO 14001取得したので、県内の市町村役場にもグリーン調達の推進を指示し、その一環としてそれぞれの役場にもISOの取得を推奨している。

※グリーン調達(購入)：広義には環境負荷の低減に配慮した製品、材料、部材を購入することを言う。(購入側が基準を示すことになる。)  
狭義には、ISO 14001の認定取得または関心をもつ会社団体から購入することを言う。

参考文献：『環境マネジメントシステム』 鈴木 敏央著

(日立化成工材(株)道建塗料技術グループ 技師、路材協技術委員)

# 平成13年中の交通事故死者数について

(警察庁交通局交通企画課資料より)

事務局

平成13年中の道路交通事故による死者数は、8,747人（前年比-319人、-3.5%）と昭和56年以来の9,000人以下となった。

一日平均死者数は、24.0人（前年24.8人）で60分に一人死亡していることになる。

一方、事故発生件数や負傷者数は依然として増加傾向にあり、11月までの発生件数（概数）は、854,973件（前年同期比+10,333件）、負傷者数（概数）は、1,066,424人（前年同期比+17,897人）となっている。

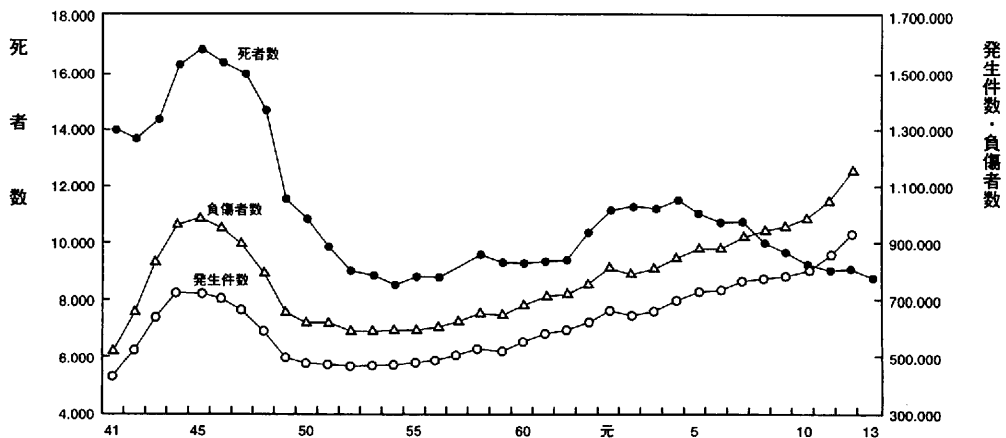
交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移

年	発生件数		負傷者数		死者数	
	(件)	指数	(件)	指数	(件)	指数
昭和41年	425,944	59	517,775	53	13,904	83
42	521,481	73	655,377	67	13,618	81
43	635,056	88	828,071	84	14,256	85
44	720,880	100	967,000	99	16,257	97
45	718,080	100	981,096	100	16,765	100
46	700,290	98	949,689	97	16,278	97
47	659,283	92	889,198	91	15,918	95
48	586,713	82	789,948	81	14,574	87
49	490,452	68	651,420	66	11,432	68
50	472,938	66	622,467	63	10,792	64
51	471,041	66	613,957	63	9,734	58
52	460,649	64	593,211	60	8,945	53
53	464,037	65	594,116	61	8,783	52
54	471,573	66	596,282	61	8,466	50
55	476,677	66	598,719	61	8,760	52
56	485,578	68	607,346	62	8,719	52
57	502,261	70	626,192	64	9,073	54
58	526,362	73	654,822	67	9,520	57
59	518,642	72	644,321	66	9,262	55

年	発生件数		負傷者数		死者数	
	(件)	指数	(件)	指数	(件)	指数
昭和60年	552,788	77	681,346	69	9,261	55
61	579,190	81	712,330	73	9,317	56
62	590,723	82	722,179	74	9,347	56
63	614,481	86	752,845	77	10,344	62
平成元年	661,363	92	814,832	83	11,086	66
2	643,097	90	790,295	81	11,227	67
3	662,388	92	810,245	83	11,105	66
4	695,345	97	844,003	86	11,451	68
5	724,675	101	878,633	90	10,942	65
6	729,457	102	881,723	90	10,649	64
7	761,789	106	922,677	94	10,679	64
8	771,084	107	942,203	96	9,942	59
9	780,399	109	958,925	98	9,640	58
10	803,878	112	990,675	101	9,211	55
11	850,363	118	1,050,397	107	9,006	54
12	931,934	130	1,155,697	118	9,066	54
13	854,973	***	1,066,424	***	8,747	52

注1 指数は昭和45年を100とした値である。

注2 平成13年の発生件数、負傷者数は11月末現在（概数）である。



## 都道府県別交通事故死者数

### 累計死者数の多い都道府県

順位	都道府県	順位
1	北海道	516人
2	愛知県	403人
3	千葉県	390人
4	埼玉県	378人
5	東京都	359人

### 累計死者数の少ない都道府県

順位	都道府県	順位
1	福井県	61人
2	鳥取県	61人
3	鳥根県	72人
4	長崎県	74人
5	秋田県	75人

### 死者数が増加した都道府県

順位	都道府県	順位
1	福岡県	+27人
2	滋賀県	+19人
3	福島県	+18人
4	神奈川県	+17人
5	岩手県	+16人
5	茨城県	+16人
5	山梨県	+16人

### 死者数が減少した都道府県

順位	都道府県	順位
1	東京都	-54人
2	大阪府	-42人
3	愛知県	-40人
4	北海道	-32人
5	栃木県	-29人
5	福井県	-29人

都道府県	平13年	順位	平12年	増減数
北海道	516	1	548	-32
青森	110	30	128	-18
岩手	149	24	133	16
宮城	156	22	177	-21
秋田	75	43	96	-21
山形	86	38	91	-5
福島	210	16	192	18
東京	359	5	413	-54
茨城	344	6	328	16
栃木	191	18	220	-29
群馬	180	20	185	-5
埼玉	378	4	389	-11
千葉	390	3	416	-26
神奈川	324	10	307	17
新潟	227	13	228	-1
山梨	97	32	81	16
長野	198	17	196	2
静岡	307	11	308	-1
富山	88	37	92	-4
石川	108	31	98	10
福井	61	46	90	-29
岐阜	224	14	222	2
愛知	403	2	443	-40
三重	221	15	213	8
滋賀	145	25	126	19
京都	164	21	181	-17
大阪	327	9	369	-42
兵庫	336	7	341	-5
奈良	90	36	100	-10
和歌山	97	32	100	-3
鳥取	61	46	55	6
鳥根	72	45	74	-2
岡山	190	19	188	2
広島	251	12	270	-19
山口	152	23	159	-7
徳島	85	39	73	12
香川	134	28	120	14
愛媛	142	26	155	-13
高知	76	42	91	-15
福岡	334	8	307	27
佐賀	84	40	92	-8
長崎	74	44	92	-18
熊本	141	27	167	-26
大分	93	34	93	0
宮崎	91	35	117	-26
鹿児島	128	29	123	5
沖縄	78	41	79	-1
合計	8,747	…	9,066	-319

本年もどうぞよろしく申し上げます

### 路面標示材協会会員

(正会員)		五十音順	
会員名	〒	主な所在地	同左電話
アトムクス(株)	174-8574 364-0101	東京都板橋区舟渡3-9-6 埼玉県南埼玉郡菟淵町昭和沼6	03(3969)3111 0480(85)8111
大崎工業(株)	593-8311 144-0033	大阪府堺市上89番地 東京都大田区東糀谷4-1-4	0722(72)1453 03(3743)3004
(株)キクテック	457-0836 106-0041	名古屋市南区加福本通1-26 東京都港区麻布台1-11-9(麻布台第一生命ビル)	052(611)0680 03(3586)9788
信号器材(株)	211-8675 105-0003	川崎市中原区市の坪160 東京都港区西新橋1-12-10(虎の門ウイングビル)	044(411)2191 03(3503)3041
神東塗料(株)	661-8511 136-0082	兵庫県尼崎市南塚口町6-10-73 東京都江東区新木場4-12-12	06(6421)9865 03(3522)2353
セイトー化成(株)	421-0113 101-0042	静岡県静岡市下川原3555番地 東京都千代田区神田富山町24(神田富山町ビル)	054(258)5561 03(3251)2651
積水樹脂(株)	530-0047 105-0022	大阪市北区西天満2-4-4(堂島関電ビル) 東京都港区海岸1-11-1(ニューピア竹芝ノースタワー)	06(6365)3244 03(5400)1821
太洋塗料(株)	144-0033	東京都大田区東糀谷6-4-18	03(3745)0111
(株)トウベ	592-8331 103-0022	大阪府堺市築港新町1-5-11 東京都中央区日本橋室町2-3-14(古河ビル)	0722(43)6419 03(3279)6441
日本ライナー(株)	105-0014	東京都港区芝2-17-11(パーク芝ビル)	03(5419)9682
日立化成工材(株)	317-0051 113-0034	茨城県日立市滑川本町5-12-15 東京都文京区湯島3-31-6(大塚ビル)	0294(22)1313 03(5688)5330
富国合成塗料(株)	652-0816	神戸市兵庫区永沢町3-7-19	078(575)6600
藤木産業(株)	592-8331	大阪府堺市築港新町2-6-50	0722(44)5588
レーンマーク工業(株)	731-1142	広島市安佐北区安佐町大字飯室字森城6864	082(835)2511

(賛助会員)

加入順

会 員 名	〒	主 な 所 在 地	同左電話
日本ガラスビース協会	153-0063	東京都目黒区目黒3-9-1(ポッターズ・パロティニービル内)	03(3794)7131
日 本 セ オ ン (株)	100-0005	東京都千代田区丸の内2-6-1(古河総合ビル)	03(3216)2342
東邦顔料工業(株)	174-0043	東京都板橋区坂下3-36-5	03(3960)8681
ト ー ネ ッ ク ス (株)	105-0022	東京都港区海岸1-16-1(ニューピア竹芝サウスタワー)	03(5403)3127
キクチカラー(株)	170-0002	東京都豊島区巣鴨3-5-1	03(3918)6611
三 井 化 学 (株)	100-6070	東京都千代田区霞ヶ関3-2-5(霞ヶ関ビル)	03(3592)4388
日 本 製 袋 (株)	150-0031	東京都千代田区岩本町2-4-3(太陽生命神田ビル)	03(3861)0020
丸 善 石 油 (株)	104-8502	東京都中央区八丁堀2-25-10	03(3552)9371
大日本インキ化学工業株	103-8233	東京都中央区日本橋3-7-20	03(3278)0122
(株)エヌ・アイ・シー	541-0048	大阪市中央区瓦町1-7-7(愛暖ビル)	06(6232)2123

## 平成13年 路材協会報の発行内容

### No.111(平成13年1月20日発行)

21世紀の路材の変化を考える 理事 岩国 信彦	1
環境対策型路面標示用塗料(無鉛化)の提案 技術委員会	4
平成12年中の都道府県別交通事故死者数 事務局	14

### No.113(平成13年7月20日発行)

就任ご挨拶 会長 山本 一志	1
平成13年度 運営計画	4
平成13年度 役員一覧	6
路面標示の1日における視認性を考える 梶原 秀太	7
路面標示の再帰反射性能について 宮崎 真一	16
平成13年5末(1~5月)道路交通事故統計 事務局	21

### No.112(平成13年4月20日発行)

共生の中の新たな価値の実現へ 理事 新美 賢吉	1
路面標示用塗料の環境対応について考えてみる 小森広志	4
平成12年中の都道府県別交通事故死者数 事務局	11

### No.114(平成13年10月20日発行)

第7次交通安全基本計画にみる 理事 笹尾 和範	1
平成13年度 役員	5
半たわみ性舗装について 森 呂之	6
平成13年8月末(1~8月)道路交通事故統計 事務局	14

## 1. 移動

### 1) 正会員関係

- アトミクス(株)技術委員 増田 真一氏は、取締役道路副事業部長兼技術部長になられています (H13年6月)。
- 大洋塗料(株)技術委員 松村 正樹氏は取締役技術部長兼工場長になられています (H13年6月)。
- 富国合成塗料(株)技術委員 小西 陽氏は、常務取締役になりました (H13年10月)。
- 日本ライナー(株)技術委員は、相川浩三氏から 高栄 正樹氏に変更です(H13年10月)。

### 2) 賛助会員関係

- 日本製袋(株)連絡担当は、小野 敏之氏から、奥山 淳氏 (部長代理) に変更です (H13年10月)。

## 2. 委員会活動

技術委員会は、グリーン購入法「調達品目として (1) 無鉛黄色塗料 (2) 水性塗料」の原案作成し理事会に報告し、協会として2品目につき環境省に提出した。

### 余滴

今年、午年、「うま」く改革などが進み景気が上向く事を期待したい。

最近の景況感、3ヶ月連続で悪化していると報じられております。皆で頑張って僅かでも改善したいものです。

平成14年度の政府の名目経済成長率は、マイナス0.9%、実質0.0%とし、3年連続の名目マイナスとなり、GDPは500兆円の大台を割り込む見込みとしている。

一方、民間21社の経済成長率予測値 平均マイナス0.5%といわれており、18社がマイナス成長を予測している。これは、景気回復への生みの苦しみののだろうか？

また、平成14年度の国家予算の一般会計規模が3年前の平成10年度並の水準で、一般歳出は、今年度当初予算に比べマイナス1.7% (政府案) といわれており、大変厳しい年になりそうです。

このような中で、交通安全に係わる者の立場では、平成13年の道路交通事故による死者数は、減少しているが事故件数や、負傷者数は依然として増加傾向にあり、交通事故による社会的・経済的損失は、年間約5兆円とも言われております。

尊い命を守る為に経済的で「分かりやすく、良く見える」路面標示の適切な設置に貢献できるよう、関連諸官庁の指導の下、関連の皆様と共に交通事故の減少に努めたいと思います。

(小林)